

新柳町第一自治会 65世帯  
伊藤 昭一さん(65歳)



大型店の車の出口に面しています



## 「七夕やお祭りは町内の協力が必要です」

柳町にあった遊郭がここに移ってから第2次大火までは、広い道路の真ん中に桜並木もあり、昼も夜も人通りが賑やかでした。

今は7割以上が60歳以上の世帯で、雪かきが大変です。今年から自治会で一斉排雪をやろうと決めましたが、幸い、暖冬のお陰で必要ありませんでした。来年以降も計画したいと思います。

2年に1回のバス旅行では、特に一人暮らし老人に参加を呼びかけています。ほとんどの行事は新柳町第二自治会と共同で行っています。双方のまとまりが良く、七夕やお祭りでは若い人たちのグループが積極的に協力してくれます。自治会活動を維持していくには、将来、自治会の合併についても検討が必要だと思えます。



## 大空に舞う能代凧

4月28日、恒例の全市能代凧揚げ大会が行われました。空には県内外からの参加者によるさまざまな絵柄の凧が舞い上がり、多くの観客の目を魅了していました。

## いつも元気



「大切な郵便物ちゃんと届けたよ」  
今日は、ほくたち一日郵便局長に大変身。大切な手紙を市長さんへ渡したよ。  
(4/23 市役所で)

## のーろ逍遙

# 歴史と民俗のあいだ

## 百万遍 (三)

百万遍の時に地獄絵や涅槃絵が掛けられます。鶴形では六本の地獄絵がありました。柏子所では涅槃絵が掛けられていました。道地では十王図を中心に十五本の掛け図がありました。

左の写真は鶴形の一本ですが、その中にはさまざまな地獄の場面が描かれています。上の方に怖い顔をしたお婆さんがいます。この辺では「シヨズケの婆」といわれていますが、奪衣婆のことで、地獄に落ちてくる罪人の衣を剥いで木の枝にかけます。「シヨズケ」は葬頭河(三途川)のことで、死者はこの河を渡って地獄のさまざまな責め苦を受けて、閻魔王の裁きを受けます。画面の中心には血の池地獄があり、その左には剣の山があつて、鬼に追い立てられる罪人がおります。一番下には地藏様が立っていて、賽の河原で石を積む子供を救おうとしています。これらの画面は六道絵ともいい、地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人道・天道を描きます。死後の世界はもとより、人間の生きている世界さえ四苦八苦があり、天に行つてさえも浮かばれないという思想です。そこで地藏菩薩や阿弥陀様にすがって生きようという信仰が生まれてきます。

